

# 残酷人生論

目から鱗 BOOK

『残酷人生論』は、「人生」というテーマに沿った、著者池田晶子のエッセイ集である。彼女は週刊誌などの大衆紙において異色な「哲学エッセイ」を連載し、哲学を易しく伝えた文筆家だ。46歳という若さで亡くなっているが、真摯に真理を追い求めた姿勢に根強いファンは多く、彼女の著書は死後もゆっくりと版を重ねている。

「考えることは、悩むことじゃない——世の人、決定的に、ここを間違えている。人が悩むのは、きちんと考えていないからにほかならず、きちんと考えることができるなら、人が悩むということなど、じつはあり得ないのである。」

人生いかに生きべきか。悩む人も多はずだ。しかし、彼女はそれを考えていないからだと断ずる。人生に悩んでいる人は、人生とは何なのかをはっきりさせないままにしているにすぎない。そしてわからないことを悩むことに意味は無く、わからないことは考えられるべきだと、彼女は主張している。

そしてどんな悩みも徹底的に考えていくと、最後は大きな疑問に収束する。つまり「生きるとは何か」、「自分とは何か」など、誰も一度は抱いた疑問にたどり着くのである。この本はそんな途方もなく素朴で大きな疑問に、逃げずに立ち向かう本である。答えが出ずとも考え続ける、真実への愛であふれる本である。

ストイックなまでに哲学の真髄に迫るこの本。しかしながら、難解な哲学用語はほとんど用いられていない。あくまで普段用いる言葉で「生きるとは何か」に立ち向かう。だから、この本は「哲学」ではなく「哲学の仕方」を伝える本でもある。しかしそれは一方で、私たちがいかに普段ものを考えていないかを突きつける残酷な側面もあるのだ。

本当に大切なことだけをひたすら追い求めていく、いうなれば「哲学的処世術」。甘ったるい慰めは一切無いが、小難しい言葉でごまかしもしない、そんな人生と哲学のお話。残酷と思うかどうかは、あなた次第。(猫ろ餅)



『残酷人生論』  
(情報センター出版局)  
著者：池田晶子  
定価：1,470円



## レンジで作る！ 鶏の照り焼き



焼かないのに照り焼きってどういうことや



### 材料 (1人分)

鶏もも肉	150g
長ネギ	1/2本
片栗粉	小さじ1/2
☆醤油・砂糖・酒	各大さじ1

### 作り方

- ① 鶏もも肉は食べやすい大きさに切り、深めの皿に重ならないように並べる。長ネギは3cmほどの長さに切り、肉のすき間に置く。
- ② ☆をよく混ぜ合わせて①にまんべんなくかけ、ふんわりとラップをかけたら電子レンジ (500W) で5分加熱する。
- ③ 皿から肉とネギを取り出し、たれが熱いうちに水溶き片栗粉を混ぜる。ラップせずにレンジで1分加熱し、よく混ぜたら肉とネギを戻してからめる。

はみだし  
すてーじ

最高気温が一桁の日は外出しない。  
⇒もう言い訳できない季節ですね。

(文・1 長官)  
(ざぁ講義に行くんです；編)